

## 春の緑が丘 みんなの森



4月1日 早くもイヌシデやコナラの若葉が広がり始めた

**緑**が丘に位置する小さな雑木林。Y字路にはさまれた先がやや小高くなっている。昔はここから南の団地方面は田んぼだったそうで、その先に仙川が流れている。全体がシデやコナラの落葉樹で覆われているため冬の間は明るい光、葉の茂る夏などは鬱蒼として子ども

もたちには少し危ない場所になっているらしい。昨年からはそんな雑木林をどうやって活用したらいいのかと、地域住民による「みんなの森をみんなで考える会議」としてセミナーやワークショップを開催してきたという。また雑木林の管理の仕方

も学びたいとのこと、若葉の森の視察も予定しているとのこと。3月20日、春は始まったばかりでまだ何も無いように見える雑木林の中もササの間をよく見ると可愛いらしい花や葉っぱが見つかる。写真の他にもニワトコのツボミやスイカズラの蔓、花を終えたヒメカンスゲや枯れ残ったキンランなども見られた。この日はコツコツと楽しい音が響き、目の前に2羽のコゲラ（きつつき）も姿を見せた。



フキの花

もっと群生するようになったら、味噌汁などに散らして春の香りを楽しみたい。



カンゾウの仲間だろうか。近頃はヘメロカリスという名で売られている園芸種との交雑も多いという。咲いてからじっくり見たい。



黄色い上品な花が咲くニガナと思われる。5～6月にまた確認したい。



クサバケ

花びらのちぎれた小さなクサバケ発見！



夏の終わり頃、花びらの少ない楚々とした白いコギクのような花が咲くのはシラヤマギク。その頃もう1度見てみたい。



タチツボスミレ

ありふれたスミレだがなんとも言えない美しいすみれ色の花が可愛い。



1年目にペロンと1枚だけ葉が出るのはユリ科に多く見られる。これはあと2～3年たつと花が咲くオニユリだろう。



# 和

名の華鬘（ケマン）は寺院の仏堂内陣に飾られた金銅製の装飾で、荘厳な雰囲気醸し出されている。もともとはインドの男女が身体を生花の花輪で飾った風俗から転じたものが仏具となったものとされている。

葉がその華鬘に似て、紫色の花を咲かせ

花の履歴書  
ムラサキケマン（紫華鬘）  
ケシ科



Corydalis incisa

ることから名付けられたというが、寺院の天井をじっくり眺めたこともなく、いつかしっかりと見ようと思いつつ、法事の際など下を向いていることが多いと、しっかりと確認したことがない。

ムラサキケマンの全草にはプロトピンという有毒物質が含まれ、誤食すれば嘔吐・呼吸麻痺・心臓麻痺などを引き起こすというが、これを食草とするウスバシロチョウの幼虫は中毒を起さないのである。最近、植えた覚えのないムラ

サキケマンが庭のあちこちに生え、きれいな赤紫の花を咲かせている。時々空坊主になった姿を見かけるが、成虫を見たことはなく、どのような虫が食べたのか確認していない。

秋に軟弱な葉を広げ、早春に花を咲かせ、初夏の頃に種子をまらせると枯れてしまう越年草（2年草）として扱われているが、実際にはもう少し複雑な生活史を持つっており、初夏に実らせた種子は翌年の春に発芽し、初夏のころまで成長した後、花も咲かせず地上部は枯れてしまひ、地下に塊茎を残して休眠（夏眠）している。

その年の秋になると再び活動をはじめ、数枚の葉を出して越冬休眠、越年した春に初めて花茎を伸ばし花を咲かせる。種子から開花して枯れるまで3年を要する3年草とでもいえる生活史を持っている。

## 雑木林で手づくりクラブ シュロのカゴ

完成!



1 シュロの葉を中央から左右13本ずつに分けます。（左右同数で）残りは切り捨て、中央の葉を折るなど目印をつけておきます。



2 1枚1枚の葉を縦に畳みます。（手を切らないように）



3 中央の左右から1本と2本をとり、格子状になるように重ね、次々に左右の葉を編むように入れ込んでいきます。



4 こんな風に窪んだ形になるように、そして左右の葉の枚数は同じになるように。



5 左右とも10枚使ったら切り捨てた葉で先っぽを結び、両脇に3枚ずつ残します。



6 3枚の葉は捻じってカゴのフチになるようにします。先ほど結んだ葉と一しょに結び、葉柄をまげて差し込めば完成!

## 春はどこから 【キアゲハ】



3月17日（日）庭の掃き出し近くに何やら黒っぽい物体。近寄って見たらナント、羽化したばかりのキアゲハ! 「エー、こんなに早く出てきて大丈夫?」「こんなところ暖かい日が続いてたからなあ。うっかりでちやったか」と独り言。生き物はみんなどこで春を待つてんだろ、ということも思う。かく言う私も無類の寒ヲ嫌ひ。冬眠してこゝそり隠れて春を待っていたと思う。昆虫や変温動物の仲間なのかも。（SN）



## 入間・樹林の会

■2月17日回「晴れ」

参加11名

ツバキの森の片づけを行った。シラカシの大木の倒木はチェーンソーがないと難しい。(課題) 民有地の横の落枝の山を全員で片付けた。近隣の人から樹林地内でたばこを吸っている人がいるので、火事が怖いと注意された。



粗朶柵用の作業

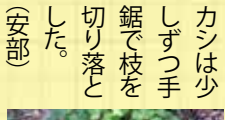
■3月3日回「雨」参加5名  
子ども野鳥観察会 スタッフ4名

当日は雨、気温6度で、3家族5人の参加があった。カワラヒワ、ハクセキレイ、ツグミ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、シメ、ハシボソガラス、ドバトの11種類を観察した。野鳥好きの小1の男子は、自分の双眼鏡で鳥をいち早く見つけ、名前や動きをよく知っていた。

野鳥観察会集合  
メ、ハシボソガラス、ドバトの11種類を観察した。野鳥好きの小1の男子は、自分の双眼鏡で鳥をいち早く見つけ、名前や動きをよく知っていた。

■3月17日回「晴れ」参加12名

2月に引き続きツバキの森の落枝の山の片づけを行った。人手があつたので作業もはかどり、見通しがよくなった。倒木の大きなシラカシは少しづつ手鋸で枝を切り落としました。

ニリンソウの花が楽しみ  
片づけた落枝の山

## カニ山の会

■2月9日回

小雨のため活動中止

■3月9日回「晴れ」

参加11名

最初に石森さんによる外来種ムネアカハラビロカミキリの説明を受け女性陣は東樹林の見回りをしたが、確認されなかった。作業は東樹林に集中し、未だに終わらない昨年台風の落枝の片づけなどを行った。斜面上段・中段・下段に材の太さなどの種類別に山積みするとかなりの量となり廃棄方法は公園課に相談することにした。



園路補修

西側クヌギの根元から入る通路の路肩が崩れ始めている所には縁木より谷側30cm位に杭を並べ打ち、横木を入れて土止めを施した。次回、縁木と新たな杭の間に土を入れる予定。(キャンP場の灰土を運ぶ案が出ている)

(S&amp;K)



東樹林入口に顔を出したアマナ



ムネアカハラビロカミキリについて説明を聞く

## 若葉緑地の会

■2月10日回「晴れ」

参加6名

前日の雪が枯芝にまだらに残り、富士山は新雪で真っ白。真秋の台風で折れ、未処理のままぶら下がっている



真秋の台風で折れ、未処理のままぶら下がっている

た、シラカシなどの枝を梯子を使って落とす。高いスキルを持つメンバーが十分注意して行ったが、高所作業のどこまでをボランティアの守備範囲とするか、難しいところ。

■3月10日回「曇り」参加6名  
活動日が雨で作業ができなかった。若葉の森3・1会の助っ人として、第2緑地のキンラン自生地で笹(主にオカメザサ)を刈る。



第2緑地笹刈り



第3緑地柵修復

植生の多様性を維持するため、例年通り奥の一面は刈らずに残す。第3緑地入口のヒメヒオウギゼンセンが咲く辺りに囲いを作って通路と区分。

10月の台風による倒木で壊れた、道路側の柵が緑と公園課によって補修された。(大村)

## 若葉の森3・1会

■12月29日回「晴れ」

参加3名

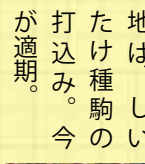
臨時活動日。第1緑地では、台風24号被害樹木を活用し、中央通路階段横木補強、竹材でコンポスト柵補強、玉切り株の椅子。

玉切り株の椅子  
コンポスト柵補強、玉切り株の椅子

子。第2緑地では、北側境界地整理、粗朶柵腐材整理、竹林境界柵補強、土留め補修。

■2月3日回「晴れ」参加9名

第1緑地は、①中央斜面地を竹材で土留め。②北側入口を竹材で補修。③コンポスト柵内に第3緑地の草(芝の一種)を移植。流土対策植生実験。第2緑地は、しいたけ種駒の打込み。今が適期。



年末に補修されたコンポスト柵竹材補強



中央斜面地土留め



植生実験草貼付け

■3月10日回「曇り」参加6名

臨時活動日。定例の3日は雨天中止。10日の緑地の会の活動日に加勢してもらいキンラン・ギンラン生育前のササ刈り作業を第2緑地で行った。(NOK)



ツバキ

ン・ギンラン生育前のササ刈り作業を第2緑地で行った。(NOK)

## 凸凹森の会

■2月24日回「晴れ」

参加6名

土の斜面に、木の枝で再び滑り止めを施しました。フキノトウやシイタケが収穫できました。



■3月17日回「晴れ」参加7名  
去年の秋の台風で、上部が折れた木。葉が茂っていた時はどのような状態で折れたのか確認できませんでしたが、葉がすっかり枯れ落ち、放置しておくと危険とわかり、皆で協力して撤去しました。(石原)

(石原)





2011年3月の東日本大震災、それに続く福島原発事故をきっかけに、自然のエネルギーの利用や次の世代に残したい暮らし方を考えるなかで、私たちは2016年に「一般社団法人えねこや」を設立しました。「えねこや」は、自然のエネルギーだけで心地よく過ごせる小さな建築（エネルギー小屋）のこと。その第1号の建築設計事務所「えねこや六曜舎」（深大寺北町）は、3年近く順調に稼働しています。

私たちは「えねこや」を地域に広げることを通じて、再生可能エネルギーと省エネによる「地球にやさしい暮らし」と「自然災害に負けないまちづくり」を実現したいと考えています。しかし、第二号の実現はなかなか難しい。そこで――

## 「移動式えねこや」をつくりま

私たちは、トレーラーハウス型の「移動式えねこや」製作に着手しました。太陽光発電パネルと蓄電池で電気を自給自足するだけでなく、木造の小屋は断熱性能が高く、省エネで快適に過ごせる空間です。これを多くの人びとが集う場所に引っぱり張っていきます。

# 電気を自給自足する ＜動くおうち＞が もうすぐ誕生

たくさんの方に、自然エネルギーだけでできることを体験してほしいのです。

## 移動式えねこやを 活用したい！

製作段階から多くの皆さんに関わってもらい、楽しく役に立つ活用のアイデアを一緒に考えていきます。物販販売はもちろん「えねこやカフェ」や「ミニギャラリー」「ミニライブハウス」「ミニシアター」「移動スタジオ」「災害時の電力基地」などなど。また調布市内の小中学校や地域のイベントで、エネルギー教室なども企画していきます。

## 深大寺境内で製作 デビューは五月！

移動式えねこやの製作は、深大寺境内の「深沙の杜（じんじやのもり）」をお借りして、四月に行います。四回の製作ワークショップ（お披露目を含む）を予定し、5月11日のアースデー・イン・調布（調布駅南口広場）でデビューの予定です。詳細は（えねこや）のウェブサイトをご覧ください。なお、木造小屋製作資金のクラウドファンディングを三月末まで行い、130人以上の方から目標額を超える126万円の支援をいただきました。ありがとうございます！（大村哲夫）



移動式えねこやの床ができました。3月26日、深大寺境内で。

## 移動式えねこやイメージ図



## 雑木林保全活動のスケジュール

### 入間・樹林の会

毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

- 4月21日(日) 9:30～14:30 保全活動、植生調査、入間町2丁目樹林地観察会
- 5月19日(日) 9:30～12:30 保全活動
- 6月16日(日) 9:30～12:30 保全活動

### カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。参加希望者は野草園横に直接集合。

- 4月13日(土) 10:00～15:00

### ●5月11日(土) 10:00～12:00

午後はアースデー手伝い

### ●6月8日(土) 10:00～15:00

### 若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 5月12日(日) 9:30～12:00
- 6月9日(日) 9:30～12:00
- 7月14日(日) 9:30～12:00

### 若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

### ●5月5日(日) 9:30～12:00

### ●6月2日(日) 9:30～12:00

### ●7月7日(日) 9:30～12:00

### 凸凹森の会

原則毎月第4日曜ですが、今年は大型連休を避けています。

- 4月14日(日) 9:30～12:00
- 5月26日(日) 9:30～12:00
- 6月23日(日) 9:30～12:00



※上の5団体の保全活動問合せは、調布市役所「緑と公園課」Tel. 042-481-7083 へ

◆「ちようふの自然だより」は、カンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちようふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。

◆本誌は、地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部（市役所8F）、あくろす2・3F、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス（国領）、えねこや、みさと屋（布田）、おぎもと内科クリニックなどに置いています。

本誌の「置き場所&応援カンパ」募集中です！ ◆会員募集！ 年会費 ●会員：1000円／●サポーター会員：500円 郵便振替(00150-9-765663 ちようふ環境市民会議)

発行：ちようふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問い合わせには当方の返信が届かない場合があります。

この「ちようふの自然だより」は、ちようふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。http://chofu-kankyo-shimin.org